

「盲」と東京

・視覚障害者とともに都市を拓く・

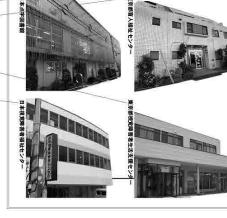
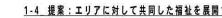
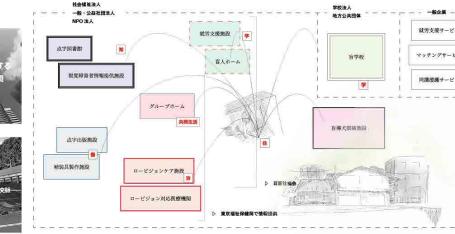
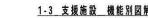
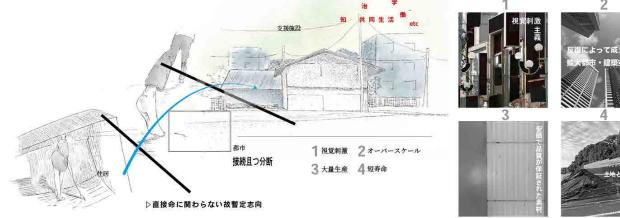
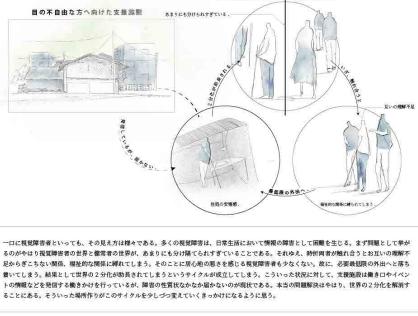
資本主義は東京を破壊した。視覚刺激をエンジンとしながら資本の力は膨張し、その猛威を奮う。現代の東京を生きる人々の多くは、東京が狂気に満ちている事に気づいていない。しかしながら、視覚障害者は違う。視覚障害者から東京を捉える。自ずと、東京のもう一つの粗暴が見えてくる。

01 計画の意義

1-1 視覚障害者が抱える問題とその構造



1-2 都市は人を置き去り

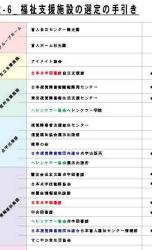
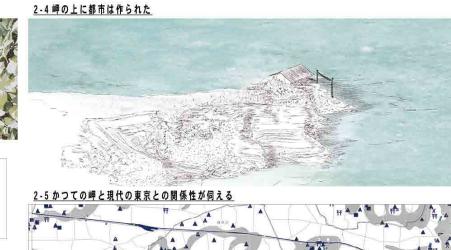
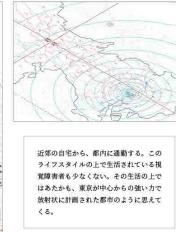
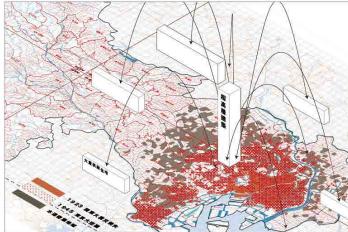


一口に世界恐慌などといって、その実態を理解する。多くの復興論者は、日常生活において経済の苦難を「問題」を生む。それを「問題」と呼ぶのが何よりも復興論者と「問題」の間の壁である。まさに「手に打つて解いて」いることである。それゆえ、専門家が問題を抱えむことは理解不能からではなく、専門的知識の範囲に限られている。そこにこそ、この問題の本質を理解するための「壁」がある。つまり、必要な知識の出所となるべき「知識」は、結果として「2分野」が専門化してしまうという「壁」の問題であり、それが「壁」である。こういって見て、文献収集課の「壁」や「パンパン」の構造などはなぜ仕事の「壁」を形成している、仕事の「壁」はなぜなかなか突破しないのかがわかる。本章の問題発見はやはり、世界の「2分化」を解消することにある。そういう意味での「壁」が「カギ」から「ドア」へ、「壁」から「窓」へ向かうに至るに至る。)

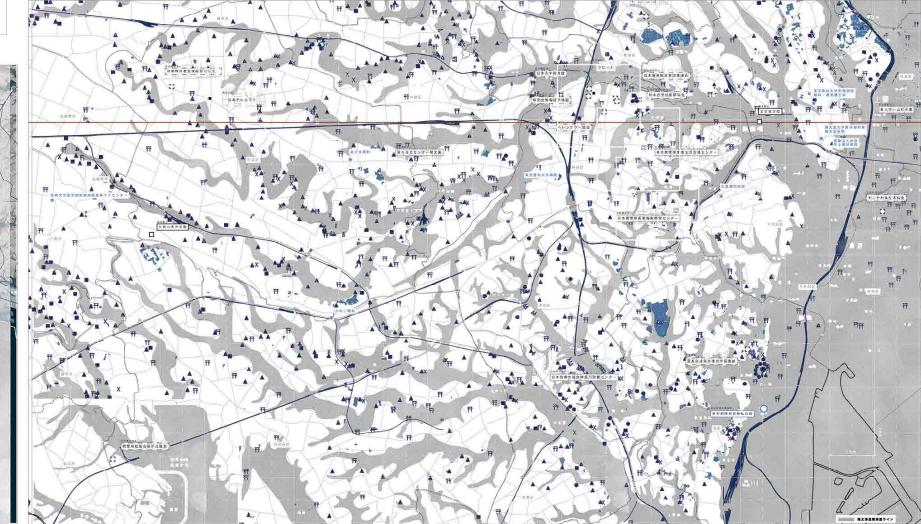
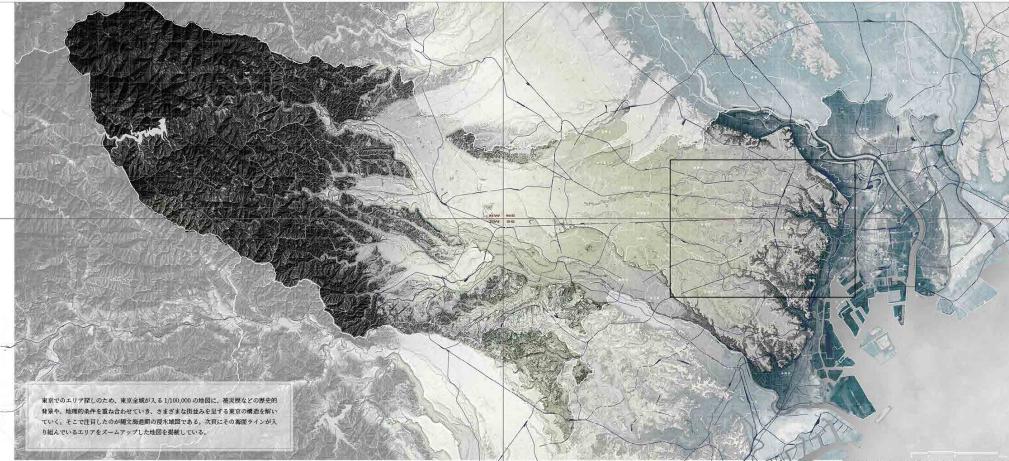
ここで、本提案の大体を記す。都内にある復興障害者へ向けて支援を行っている施設から、あるものさしを使って4つの施設をピックする。その4つの施設に対して、私がコラボレーターとして参加し、あるエリアに対し封じた情報を開示することをめざす。あるものさしについては後に記述する。エリアが複数の力を失つた場合には、エリア探しが大変重要なとなる。そのエリアを東京で探す。1つのチャレンジとしてそう認定した。次はあのエリアにいていいわけある。

02 盲目主義的地域をめざして

2-1 強い資本力で計画されたドーナツ型の東京



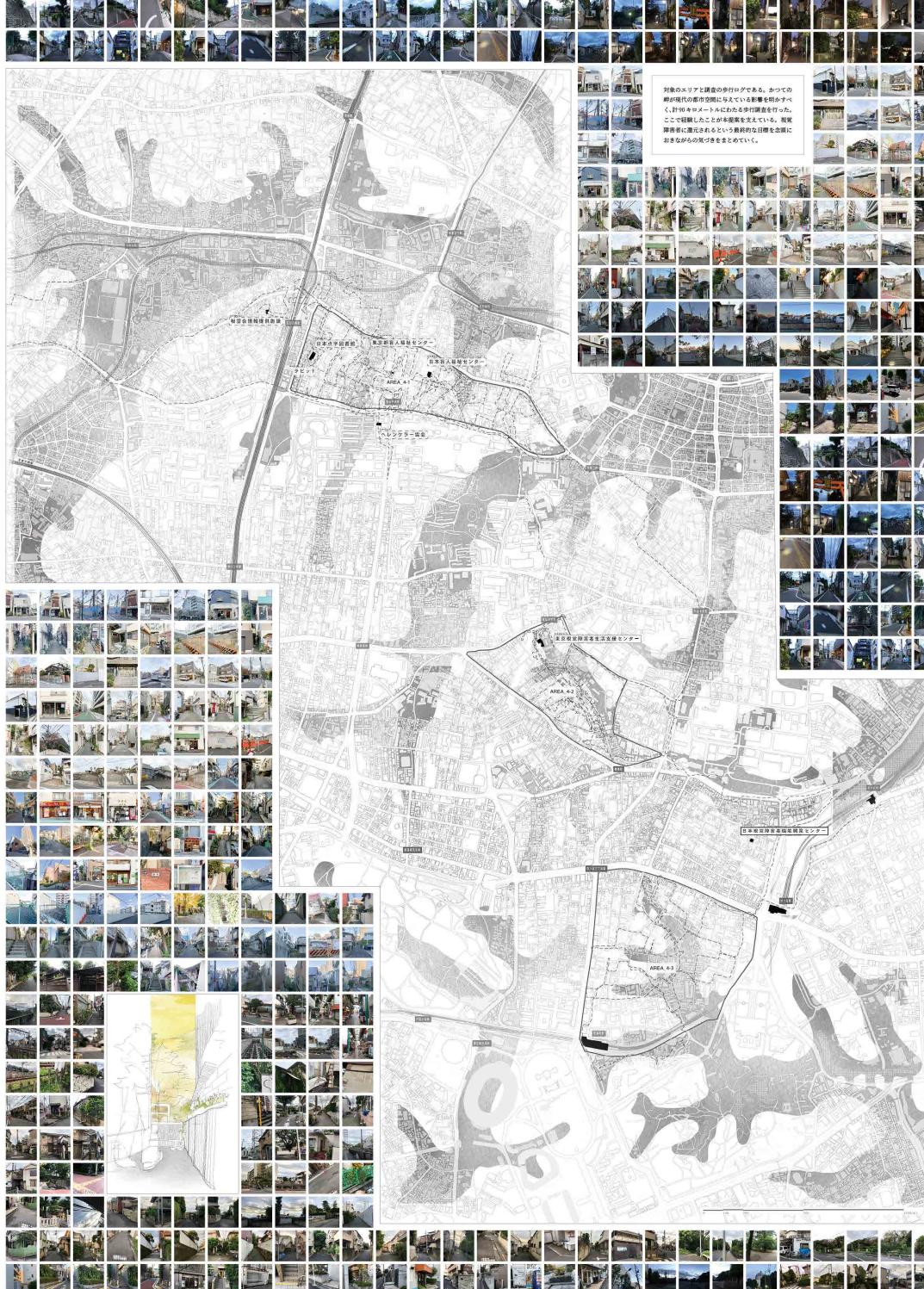
2-3 資本主義が行き届いていない隙を探



東京でのエリテ探しのため、東京全域が入る1:100,000の地図に、被災地などの歴史的背景や、地理的条件を重ね合わせている。さまざまな図みを呈する東京の構造を解いていく。そこで注目したのが関東海溝周辺の複数地図である。次頁にその複数ラインが入り組んでいるエリアをズームアップした地図を掲載している。

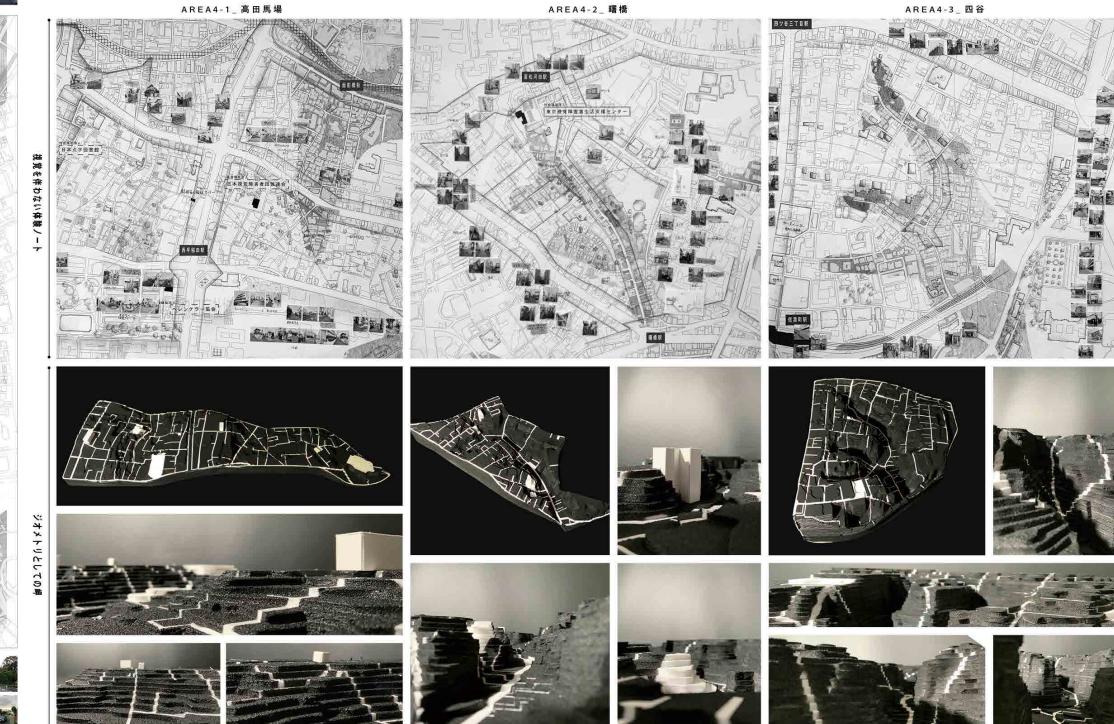
左図を扱い、かつての脚付近に位置する
福祉施設を選定し、それら施設と施設が
位置するエリアを提案の計画地とした。
つまり前章のあるものさじとは、建築基

2-7 仮説 岬は目には見えない情報に富んでいるのではないだろうか



2-8 視覚を伴わない症

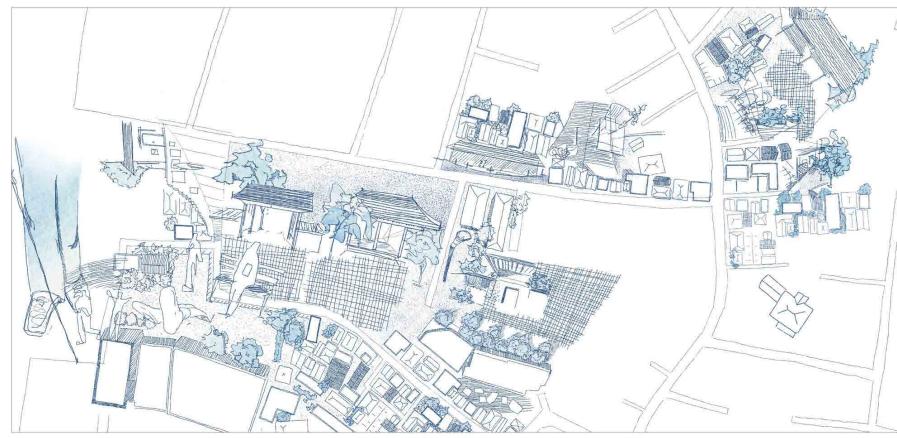
ここでは、特に支援施設が位置している街区においての身体に書きかける「御用体」や、目に見えない「街の霊園気」を記録している。下の模型図では各エリアにて、岬というジオメトリがどういった形態をしているのかを把握するのと同時に、身体がトレースできる範囲（公道・公園・社神）を自抜きした物である。この模型図では、再び持つ自然由来のジオメトリと、岬を身体がトレースして描くことができるジオメトリとのズレがあることを主張したい。



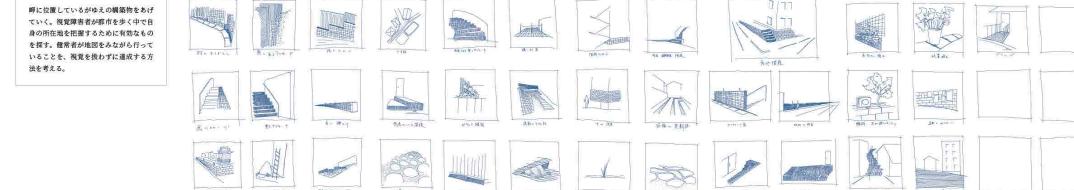
視覚を扱わずに空間を捉えるには

3-1 視覚 4基ベースイメージスケッチ

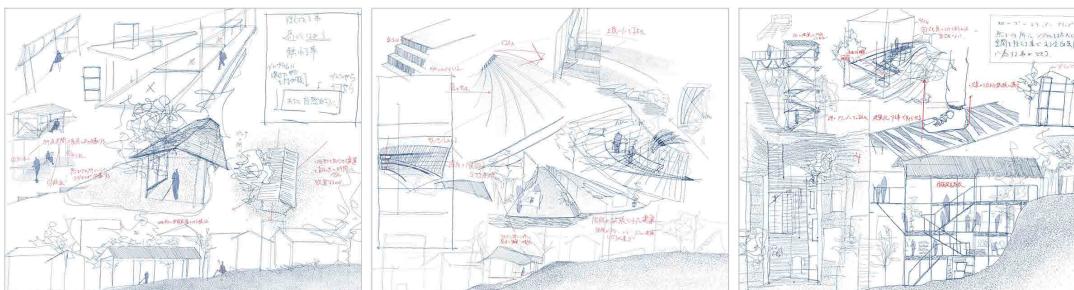
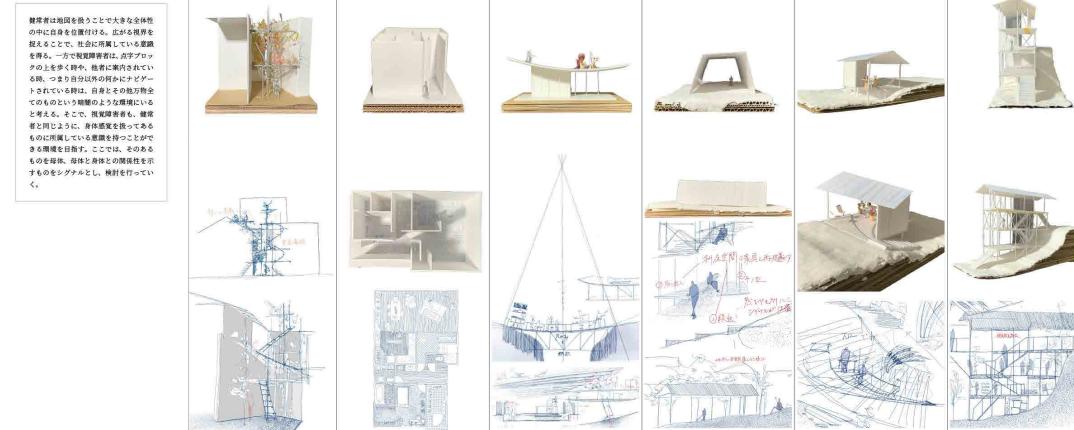
この章では、視覚障害者に日常生活についてのイメージを通して、視覚を扱わずに空間を捉えうることと健常者が持つ視覚障害者の行動を理解する手掛かりとなる。視覚障外の空間を捉えるための方法を、シーケンスとして示す。そのことをもとに、視覚障害者の身体と外の世界との接觸と、相手の動きを想しながら、時にそのイメージスケッチを充実させる情報を豊富にある。身体に働きかける空間を描むための手がかりはいかと提案する。



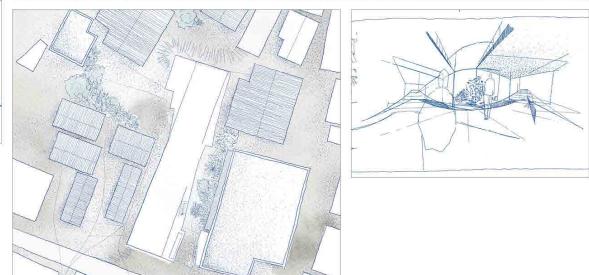
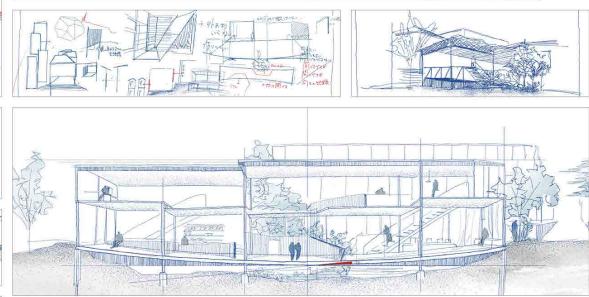
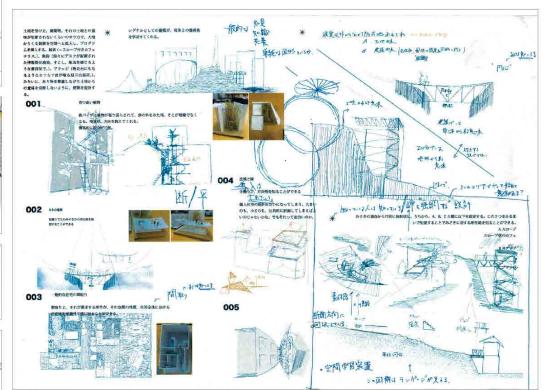
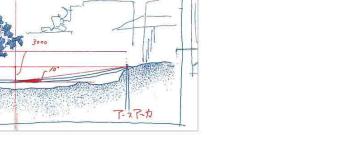
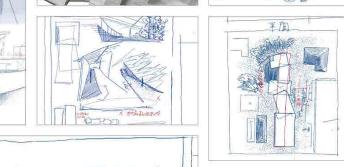
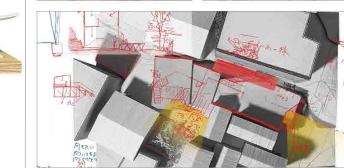
3-2 視覚 線に抗う・線を許す構造物



3-3 見えないことから空間を考える

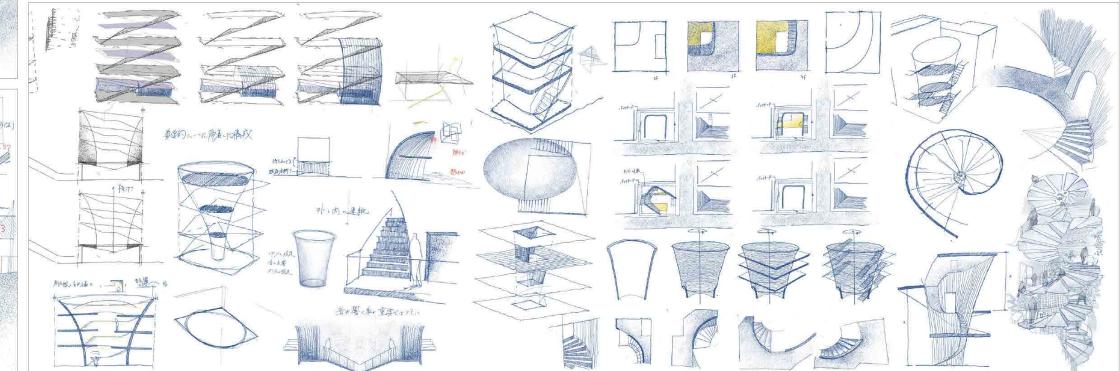


3-4 接んだ幾何学

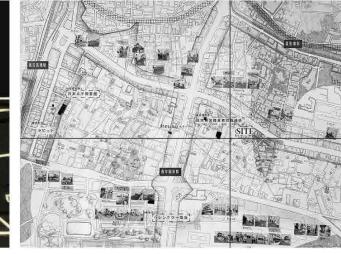
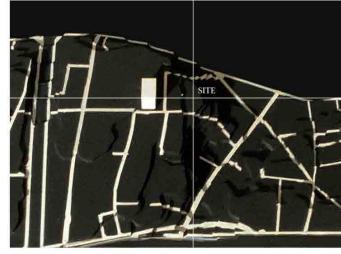


3-5 見えない中心

ここでは、建築を構成するあらゆるもの（壁・階段・手すり・椅子やテーブル等）が中心にあります。そこは建物の中心であり、施設の中心であり、建物の中心である。



高田馬場の海を望む



AREA4-2_高田馬場_商店+就労支援施設+出張ドクタ

瑞橋の賑わいの中心を立ち上げ

